

徳島大学における「ゲノム機能研究センターの中期計画と中期目標」

中期目標	中期計画	評価項目及び達成年度	評価指標
II 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
2 研究に関する目標	2 研究に関する目標を達成するための措置		
(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標	(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置		
<p>○ モデル動物を用いた疾患分子機序の解明を通して、生命の構築原理の理解に迫る。また、今後、個人化医療（オーダーメイド医療）が急速に進展することが期待されており、ゲノム解析はますますその重要性が大きくなると予想される。当センターの設置目的であるヒトとモデル動物を用いた個体レベルのゲノム機能学を創出・推進し、疾患遺伝子解明とそれに基づいた創薬・診断技術開発等を通して社会貢献を目指す。既に強力に進めている産学官連携（特にドーム研究室を用いた企業との共同研究）をさらに推進し、社会に貢献できるトランスレーショナルリサーチを発展させる。</p>	<p>○ 疾患モデル生物を用いて、個体レベルのゲノム機能学を進め、疾患モデル生物の有効利用を発展させるのみならず、ゲノム多型解析やプロテオミクスを通して病因解析を行い、治療法やゲノム解析技術の開発を進める。また、「ドーム研究室」という他に例を見ない共同研究スペースを有効に活用し、産学官の連携でゲノム機能学に基づく新しい産業の創出を図る研究拠点となることを目指す。ゲノム機能研究センターでは、このような多くの共同研究を通して、我が国独自の遺伝子利用技術や治療法を開発し、創薬標的遺伝子を明らかにすることにより遺伝子機能を解明する学際的、先端的研究を進め、国際競争力を備えた産業を創出することに貢献するよう努める。</p> <p>○ 社会に開かれた研究センターとして産学官の連携でゲノムと遺伝子に関する研究に基づく新しい産業の創出を図る研究拠点となることを目指す。このため「ドーム研究室」を有効利用する。また医学アドバイザー等として、製薬企業等の製品開発に直接関与し、民間の技術シーズを育成し、新産業の創出を促し、成果の社会・経済への還元を推進する。</p>	<p>○ マウス、ラット、ショウジョウバエ、小型魚類、プラナリア、イースト等のモデル生物を用いた疾患モデル作製とその解析の継続。H16~H21</p> <p>○ 疾患関連のゲノム多型解析やプロテオーム解析の継続。H16~H21</p> <p>○ 「ドーム研究室」を有効利用した産官学の共同研究の継続・発展。H16~H21</p>	<p>○ ゲノム機能解明に関する論文のインパクトファクターの合計 50 以上/年。</p> <p>○ 学内外との共同研究 10 件/年</p>
<p>○ センターのスタッフが質の高い基礎及び臨床（応用）的研究成果を世界的に高く評価されている学術誌に積極的に報告し、センターで得られた研究成果を出来る限り多くの研究者に活用してもらうことを通して社会に貢献する。</p>	<p>○ 既に日本人と中国人を含むアジア人を対象として取得した、「多因子性疾患の疾患感受性遺伝子を同定するために不可欠な SNPs の頻度情報」等をホームページに掲載しているが、さらにインターネットを通して成果を公表し、多くの人々が我々の研究結果を共有・利用できるシステムを構築拡大するよう努める。</p> <p>○ 学会活動及び専門知識を活かした地域社会への積極的な連携を作り出すことを目指し、各種学会の運営に評議員等として直接関与していくことを目指す。</p> <p>○ テレビ・新聞等のマスコミを通して、地域社会とのつながりを強める活動を積極的に行っていくことを目指す。</p> <p>○ 外部評価委員による評価結果や教育・研究に関する業績を年次報告（又は2年に一度）の形で発表する（年報の発行及びインターネット上で）ことを具体化するよう努める。</p>	<p>○ Tokushima ASNPs (Asian SNPs) HOMEPAGE の継続・発展・充実。H16~H21</p> <p>○ 評議員等として学会活動への直接参加・貢献。H16~H21</p> <p>○ 「ドーム研究室」を有効利用した産官学の共同研究の継続・発展。H16~H21</p> <p>○ 教育・研究業績報告の出版。H16~H21</p> <p>○ 外部評価の実施。H17</p>	<p>○ Tokushima ASNPs (Asian SNPs) HOMEPAGE の随時更新。</p> <p>○ 教育・研究業績報告の隔年出版とそのホームページへの掲載。</p>
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標	(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置		
<p>○ 医歯薬のみならず、工学部生物工学科や総合科学部生物系と連携する学部横断的な研究を推進し、この連携を最大限に活かした共同研究、産学連携、さらには国内外の研究機関との共同研究を積極的に推進する。一方、研究支援に努める。ゲノム機能学を推進していく上で必須であるバイオフィンフォーマティクスに関する研究分野の強化を図る。また、競争的大型予算を獲得すること等により、センターの研究教育体制の強化を図る。さらにライフサイエンス関連の部局と協力・連携し、基礎研究とトランスレーショナルリサーチが共存する新しい研究システムの構築を目指す。</p>	<p>○ 「ドーム研究室」は学内外との共同研究を遂行するための場所として機能しており、学内外との共同研究をこの施設を使ってさらに充実する。</p> <p>○ 獲得した研究費を有効に活用し、「個体レベルのゲノム機能学」を継続・発展させるよう努める。</p> <p>○ 大型予算を獲得することにより、センターの研究体制の人的強化を図る。</p> <p>○ 関連部門の創設のため寄附講座等の開設も検討する。</p> <p>○ 国家レベルの研究方針と国際競争を念頭に生き残りをかけた研究計画を立案できる人材にリーダーシップをまかせるよう努める。</p> <p>○ 文部科学省や経済産業省等省庁から競争的大型研究費を積極的に獲得し、ゲノムと遺伝子の機能を解明する「ポスト・シーケンスの分子生物学」</p>	<p>○ 「ドーム研究室」を有効利用した産官学及び学内外との共同研究を継続・発展させる。H16~H21</p> <p>○ 大型予算を獲得し、センターの教育・研究活動の強化を進める。H16~H21</p> <p>○ 新しいリーダーを育てる。H16~H21</p>	<p>○ 学内外との共同研究 10 件/年。</p> <p>○ 各教授が次世代プロジェクトを1画し、代表として申請を担当する：件/年。</p> <p>○ 教育・研究業績報告の隔年出版と</p>

<p>○ 文部科学省や経済産業省等省庁から競争的大型研究費を積極的に獲得し、ゲノムと遺伝子の機能を解明する「ポスト・シーケンスの分子生物学」を産学官が連携して推進する研究施設として、成果を出す。獲得した研究費を有効に活用し、「個体レベルのゲノム機能学」を継続・発展させる。</p> <p>○ 国の進める科学技術政策に関連する大型予算（未来開拓、科学技術振興調整費、21世紀COE、NEDO-JBIC等）の獲得を通して、積極的に参画していく方針を継続・発展させていく。また、学内においては学内共同教育・研究施設としてゲノム・遺伝子研究の最先端機器の共同利用を図る。</p> <p>○ 自らの研究実績によって必要な研究費を調達することを基本とする独立採算制の確立を目指す。このため、学内外の機関との融合を図り、センター共通の大型予算の獲得を通して、先駆的なシステムの構築を進める。</p> <p>○ 任期制の導入、教育・研究に関する業績の発表方法、外部評価委員による評価体制などを充実する。</p>	<p>を産学官が連携して推進する研究施設として、成果を出すことを目指す。</p> <p>○ 病態モデルマウスの作製・飼育室を拡充する。またドーム研究室の幅広い利用を促進し、また、プロテオミクス研究室の拡充もあわせ行う。このために、常勤のテクニカルスタッフを配置することで研究補助体制の確保を目指す。</p> <p>○ インターネット（ホームページ）を活用して、研究機器の共同利用の促進及び遺伝子実験施設としての研究支援の推進を強化するよう努める。</p> <p>○ 遺伝子改変動物の作製、遺伝子クローニング等の技術供与、特許取得を通して自己収入の確保に努める。</p> <p>○ 医学アドバイザーとして、製薬企業等の製品開発に直接関与し、民間の技術シーズを育成し、新産業の創出を促し、成果の社会・経済への還元を推進する。</p> <p>○ 外部評価委員による評価結果や教育・研究に関する業績を年次報告として発表する（年報の発行及びインターネット上で）ことを具体化することを目指す。</p>	<p>○ 教育・研究業績報告を出版する。H16~H21</p>	<p>そのホームページへの掲載。</p>
<p><b>3 その他の目標</b></p>	<p><b>3 その他の目標をする達成ための措置</b></p>		
<p><b>(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標</b></p>	<p><b>(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標を達成するための措置</b></p>		
<p>○ 企業等とのあらゆる形態を含む共同研究により、社会に還元できるゲノム機能学を目指してゲノム創薬、ゲノム診断や革新的ゲノム機能解析法の開発等の素地を作る。</p> <p>このため、特許を含む実用化を念頭においた研究・開発を行う。また、ゲノム・遺伝子研究に関する一般向けや高校生向けあるいは中学高校教師向けといった公開講座やサマースクールの開講を検討する。</p> <p>○ 国際的な研究交流を介してゲノム機能に関する教育研究機会を拡大し、若手研究者を育成し、研究と教育の成果に基づいて新しい産業の創出の可能性を高める。このため、外国人留学生の数を今後一層増やすことを支援するとともに、ゲノム機能研究センターのスタッフが積極的に海外の大学等にてセミナーを実施することにより、国際的貢献及び交流活動を推進する。また、大学院生および研究員の海外における学術研究会への出席の支援を図る。</p> <p>○ 欧米、アジア等の海外の研究者を受入れ、本センターが対象とする多彩な研究分野を補い、学際的な多様化と競争の原理を導入し、国際的に高い水準の研究成果をあげることを目指す。また、教員の海外派遣や研究者の短期招聘による国際共同研究の推進を図る。さらにゲノム機能学に関する国際シンポジウムの主催を計画する。</p>	<p>○ 一般向けや高校生向けあるいは中学高校教師向けの「教育的組換えDNA実験教育講習会」を開くための施設・設備を整備するよう努める。</p> <p>○ ゲノム・遺伝子研究に関する一般向けや高校生向けあるいは中学高校教師向けといった公開講座やサマースクールの開講を検討する。</p> <p>○ 「ドーム研究室」という他に例を見ない共同研究スペースを有効利用し、共同研究開発を進めていくことで、企業の若手研究者のゲノム解析とバイオテクノロジーに関する教育研究機会を拡大し、これらの研究者を育成するよう努める。</p> <p>○ 四国地域の産業育成に重要な役割を担う各種活動に直接関与する努力を行う。</p> <p>○ 民間との共同研究を一層進め、糖尿病等の疾患原因及び感受性遺伝子の同定、ゲノムデータ情報処理システムの研究開発等を目指す。これらを通して、我が国独自の遺伝子利用技術や治療法を開発し、創薬標的遺伝子を明らかにすることにより遺伝子機能を解明する学際的、先端的研究を進め、国際競争力を備えた産業を創出することに貢献するよう努める。また、民間との共同研究のみならず、科学技術振興事業団、理化学研究所等との積極的連携を図る。さらに、競争的大型予算の獲得を通して、医学ジャーナリズム・ベンチャー創業技術・知的所有権（特許関係も）・政治行政関連（科学政策や医療政策も）・倫理問題（先端技術と社会のコンセンサスなど）等の問題に取り組む。</p> <p>○ 欧米、アジア等の海外の研究者を受入れ、また、外国人研究者によるセミナーを積極的に開催し、外国人研究者との交流の機会をつくるよう努める。</p> <p>○ 外国人研究者の増加に伴いセンター内の英語環境を整備・拡充する。</p> <p>○ ゲノム機能研究センターのスタッフが積極的に海外に進出し、欧米やアジアの研究者とのより一層の交流を行う。また、これらの交流から、海外研究者との共同研究の可能性を模索し、実現していく。また、外国の研究支援財団から競争的研究費を積極的に獲得し研究を進め、さらにそれら財団を通して、関連の研究者との交流を深めることを目指す。</p>	<p>○ 一般向けあるいは中学高校教師向け「教育的組換えDNA実験教育講習会」の継続とその充実。H16~H21</p> <p>○ ゲノム・遺伝子に関する一般向けあるいは子供向け公開講座の開講。H16~H21</p> <p>○ 海外からの学生・研究者の受け入れ強化。H16~H21</p> <p>○ 海外研究者との交流・共同研究を推進するための研究費獲得の推進。H16~H21</p> <p>○ センター内英語環境の整備・拡充。H16~H21</p>	<p>○ 一般向けあるいは中学高校教師向け「教育的組換えDNA実験教育講習会」の実施：1回/年。</p> <p>○ ゲノム・遺伝子に関する一般向けあるいは子供向け公開講座の開講：回/年。</p> <p>○ 海外からの学生・研究者の受け入れ強化：各部門1人以上/年。</p> <p>○ 海外研究者との交流・共同研究を推進するための研究費申請：1回/年。</p> <p>○ センター内英語併記化とセミナー・講義における英語使用の促進順次。</p>

「2004年度(平成16年度)における年度計画とその達成状況」

16年度年度計画	16年度評価項目	16年度評価指標	自己評定	実績報告記載
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置				
2 研究に関する目標を達成するための措置				
(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置			5段階評価	
<p>○学際的、先端的研究を推進するために、各研究チームが独創性の高い知的財産を発掘する。また、新産業の創出を図る研究拠点としての発展するため、本年度も引き続き10件以上の共同研究を推進する。</p> <p>○国際競争力を高めるために、遺伝子間領域のSNPsを用いる関連解析のような他のゲノム研究関連センターにはないユニークな試みを継続する。</p> <p>○次世代のゲノム研究を指向し、疾患システムズバイオロジー研究拠点を目指すために、関連の整備を行う。</p> <p>○疾患発症のメカニズム解明のため、疾患関連遺伝子トランスジェニック/ノックアウト/ノックダウン動物を作成し、個体レベルの解析を継続する。</p> <p>○新設ベンチャー企業(ハプロファーマ、Norwood Immunology社)のサイエンス担当取締役やScientific Advisory Boardメンバーとして研究成果の社会・経済への還元を推進する。</p>	<p>○学内外との共同研究。</p> <p>○次世代ゲノム研究推進のための競争的研究費の申請。</p> <p>○疾患モデル生物の作製とその解析。</p> <p>○ベンチャー企業を通じたセンターの活性化。</p>	<p>○学内外との共同研究：10件。</p> <p>○次世代ゲノム研究推進のための競争的研究費の申請：1件。</p> <p>○疾患モデル生物の作製とその解析：関連の論文のインパクトファクターの合計50以上。</p> <p>○ベンチャーと大学の研究活動を両立させ、ベンチャー企業を介した雇用及び研究費獲得。</p>	5	<p>○学内外との共同研究：10件。</p> <p>学内外と合計35件の共同研究を実施(内民間企業との共同研究11件を含む)。</p> <p>○次世代ゲノム研究推進のための競争的研究費の申請：1件。</p> <p>下記の2件を申請。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術振興調整費「NPO法人設立による知的創造サイクル確立」</li> <li>・平成17年度研究推進経費「疾患システムズバイオロジー研究創出事業」</li> </ul> <p>○疾患モデル生物の作製とその解析：関連の論文のインパクトファクターの合計50以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合計39報の論文を出し、そのインパクトファクターの合計は「173.3」である。</li> </ul> <p>○ベンチャーと大学の研究活動を両立させ、ベンチャー企業を介した雇用及び研究費獲得。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子実験施設：オーストラリア発イギリス本社のベンチャー企業「Norwood Immunology社」のScientific Advisory Boardを務め、研究員1名を派遣した。</li> <li>・遺伝情報分野：平成16年3月に株式会社ハプロファーマを設立し、実動に向けて準備を進めている。</li> </ul>
<p>○広報活動を推進するため、IGR newsletterの刊行を継続する。</p> <p>○インターネットを通じた研究成果の有効利用を実現するため、社会的な実用性をも視野に入れたホームページの改訂をめざす。</p> <p>○センター教授・助教授は関連学会の評議委員等として学会活動に貢献する。</p> <p>○社会との連携を強めるために、研究成果等をマスコミを通して、分かり易く発表する。</p> <p>○本センターの立ち上げから丸5年をすぎたことをふまえ、中間評価を行う。そのための外部評価委員の選出、具体的評価方法を検討し、文書で公開する。</p>	<p>○ニュースレターの刊行。</p> <p>○ホームページの充実。</p> <p>○一般向け講演会の実施。</p> <p>○外部評価実施のための準備。</p>	<p>○ニュースレターの刊行：1回以上。</p> <p>○ホームページの随時更新。</p> <p>○一般向け講演会の実施：1回以上。</p> <p>○外部評価委員の人選。</p>	5	<p>○ニュースレターの刊行：1回以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2004年4月発行により実現。</li> </ul> <p>○ホームページの随時更新。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随時更新の実現。</li> </ul> <p>○一般向け講演会の実施：1回以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOとの共催での10月26日開催により実現。</li> </ul> <p>○外部評価委員の人選。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在検討中。</li> </ul>

<p><b>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置</b></p>				
<p>○ 既に多くの学内外および産官学との共同研究を進めており、これをさらに継続・発展していく。 ○ センター運営のための共通経費獲得を目指す。 ○ センターの次世代を見据え、新しいリーダーを育成する。 ○ ゲノム研究の次世代を指向するシステムズバイオロジー研究拠点形成を目指し、それに必要な各種大型研究費の獲得を試みる。 ○ マウス飼育室の拡充・整備を行う。 ○ 大学が目指している共通機器利用に積極的に貢献していく。</p>	<p>○ 学内外との共同研究。 ○ 各教授が順次代表として競争的大型研究費申請を担当。 ○ マウス飼育室運営のための共通経費申請。</p>	<p>○ 学内外との共同研究：10件。 ○ 各教授が順次代表として競争的大型研究費申請：1件。 ○ マウス飼育室運営のための共通経費申請：1件。</p>	<p><b>5</b></p>	<p>○ 学内外との共同研究：10件。 学内外と合計 35 件の共同研究を実施(内 民間企業との共同研究 11 件を含む)。 ○ 大型競争的研究費の申請：1件。 下記の 2 件を申請。 ・ 科学技術振興調整費「NPO 法人設立による知的創造サイクル確立」 ・ 平成 17 年度研究推進経費「疾患システムズバイオロジー研究創出事業」 ○ マウス飼育室運営のための共通経費申請：1件。 ・ 平成 17 年度研究推進経費「疾患システムズバイオロジー研究創出事業」</p>
<p><b>3 その他の目標を達成するための措置</b></p>				
<p><b>(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標を達成するための措置</b></p>				
<p>○ サイエンスパートナーシッププログラムの一環として中等教育教諭向けに実施する。 ○ NPO 法人「ゲノム徳島」との共催で年 1 度は開催する。 ○ 8 月後半に神戸市医師会において一般の臨床医（主に開業医）を対象に「ゲノム異常と発癌」について公開講座を行う。 ○ 国立癌センター研究所及び、徳島大学医学部皮膚科との共同研究を行うために有効活用し、発癌の分子メカニズム解明に向けて、分子レベル、細胞レベル及び個体レベルの研究を行う。また他のドーム研究室に関してはこれまでの共同研究を継続・発展させる。 ○ 四国経済産業局との連携を強化し、知的シーズの効率的な実用化を図る。 ○ 応用につながる基礎研究を推進し、研究成果の特許化をはかるために、民間との共同研究の件数を 10 件／年度以上をめざす。 ○ 他の公的研究機関との共同研究の件数を 3 件／年度以上をめざす。 ○ JSPS 拠点形成事業「Molecular Mechanism of the Thymus Organogenesis」を通して、海外研究者との交流を強める。 ○ 現在、既に Association for International Cancer Research から約 900 万円 /年の研究助成を受けており、この研究費を用いて、日本人研究者を 1 名雇用し、イギリス Paterson Institute for Cancer Research において Dr. Nic Jones のグループとの共同研究を行っている。</p>	<p>○ 一般向け講演会の実施。 ○ 学内外との共同研究。</p>	<p>○ 一般向け講演会の実施：1件。 ○ 学内外との共同研究：10件。</p>	<p><b>5</b></p>	<p>○ 一般向け講演会の実施：1件。 ○ NPO との共催での 10 月 26 日開催により実現。 ○ 学内外との共同研究：10件。 ○ 学内外と合計 35 件の共同研究を実施(内 民間企業との共同研究 11 件を含む)。</p>

「2005年度(平成17年度)における年度計画とその達成状況」

17年度年度計画	17年度評価項目	17年度評価指標	自己評定	実績報告記載
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置				
2 研究に関する目標を達成するための措置				
(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置			5段階評価	
<p>○学際的、先端的研究を推進するために、各研究チームが独創性の高い知的財産を発掘する。また、新産業の創出を図る研究拠点としての発展するため、本年度も引き続き10件以上の共同研究を推進する。</p> <p>○国際競争力を高めるために、遺伝子間領域のSNPsを用いる関連解析のような他のゲノム研究関連センターにはないユニークな試みを継続する。</p> <p>○次世代のゲノム研究を指向し、疾患システムズバイオロジー研究拠点を目指すために、関連の整備を行う。</p> <p>○疾患発症のメカニズム解明のため、疾患関連遺伝子トランスジェニック/ノックアウト/ノックダウン動物を作成し、個体レベルの解析を継続する。</p> <p>○新設ベンチャー企業(ハプロファーマ、Norwood Immunology社)のサイエンス担当取締役やScientific Advisory Boardメンバーとして研究成果の社会・経済への還元を推進する。</p>	<p>○学内外との共同研究。</p> <p>○次世代ゲノム研究推進のための競争的研究費の申請。</p> <p>○疾患モデル生物の作製とその解析。</p> <p>○ベンチャー企業を通じたセンターの活性化。</p>	<p>○学内外との共同研究：10件。</p> <p>○次世代ゲノム研究推進のための競争的研究費の申請：1件。</p> <p>○疾患モデル生物の作製とその解析：関連の論文のインパクトファクターの合計20以上。</p> <p>○ベンチャーと大学の研究活動を両立させ、ベンチャー企業を介した雇用及び研究費獲得。</p>	5	<p>○学内外との共同研究：10件。</p> <p>学内外と合計41件の共同研究を進めている(内民間企業との共同研究7件を含む)。</p> <p>○次世代ゲノム研究推進のための競争的研究費の申請：1件。</p> <p>下記の2件を申請。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術振興調整費「疾患システムズバイオロジーリサーチパーク」</li> <li>・平成17年度研究推進経費「時空間システムズバイオロジー研究創出事業」</li> </ul> <p>○疾患モデル生物の作製とその解析：関連の論文のインパクトファクターの合計50以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合計51報の論文を出し、そのインパクトファクターの合計は「272.2」である。</li> </ul> <p>○ベンチャーと大学の研究活動を両立させ、ベンチャー企業を介した雇用及び研究費獲得。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子実験施設：オーストラリア発イギリス本社のベンチャー企業「Norwood Immunology社」のScientific Advisory Boardを務め、研究員1名を派遣している。</li> <li>・遺伝情報分野：平成16年3月に株式会社ハプロファーマを設立し、実働を開始した。</li> </ul>
<p>○広報活動を推進するため、IGR newsletterの刊行を継続する。</p> <p>○インターネットを通じた研究成果の有効利用を実現するため、社会的な実用性をも視野に入れたホームページの改訂をめざす。</p> <p>○センター教授・助教授は関連学会の評議委員等として学会活動に貢献する。</p> <p>○社会との連携を強めるために、研究成果等をマスコミを通して、分かりやすく発表する。</p> <p>○本センターの立ち上げから丸5年をすぎたことをふまえ、本年度中に外部評価を開催。</p>	<p>○ニュースレターの刊行。</p> <p>○ホームページの充実。</p> <p>○一般向け講演会の実施。</p> <p>○外部評価実施。</p>	<p>○ニュースレターの刊行：1回以上。</p> <p>○ホームページの随時更新。</p> <p>○一般向け講演会の実施：2回以上。</p> <p>○外部評価委員の人選及び外部評価を兼ねたシンポジウムの開催。</p>	5	<p>○ニュースレターの刊行：1回以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年4月発行により年1回以上の刊行を継続。</li> </ul> <p>○ホームページの随時更新。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随時更新の実現。</li> </ul> <p>○一般向け講演会の実施：2回以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOとの共催での11月13日小学生を対象とした講演会を開催(参加者約230人)。</li> </ul> <p>○外部評価委員の人選と外部評価の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年3月16日に外部評価委員3人による外部評価を実施。</li> </ul>

<p><b>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置</b></p>				
<p>既に多くの学内外および産官学との共同研究を進めており、これをさらに継続・発展していく。  ○ センター運営のための共通経費獲得を目指す。  ○ センターの次世代を見据え、新しいリーダーを育成する。  ○ ゲノム研究の次世代を指向するシステムズバイオロジー研究拠点形成を目指し、それに必要な各種大型研究費の獲得を試みる。  ○ マウス飼育室の拡充・整備を行う。  ○ 大学が目指している共通機器利用に積極的に貢献していく。</p>	<p>○ 学内外との共同研究。  ○ 各教授が順次代表として競争的大型研究費申請を担当。  ○ マウス飼育室運営のための共通経費申請。</p>	<p>○ 学内外との共同研究：10件。  ○各教授が順次代表として競争的大型研究費申請：1件。  ○マウス飼育室運営のための共通経費申請：1件。</p>	<p><b>5</b></p>	<p>○ 学内外との共同研究：10件。  学内外と合計41件の共同研究を進めている(内 民間企業との共同研究7件を含む)。  ○大型競争的研究費の申請：1件。  下記の2件を申請。  ・科学技術振興調整費「疾患システムズバイオロジーリサーチパーク」  ・平成17年度研究推進経費「時空間システムズバイオロジー研究創出事業」  ○マウス飼育室運営のための共通経費申請：1件。  ・特別支援事業経費「マウス一方向気流式飼育システム」</p>
<p><b>3 その他の目標を達成するための措置</b></p>				
<p><b>(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標を達成するための措置</b></p>				
<p>○ サイエンスパートナーシッププログラムの一環として中等教育教諭向けに実施する。  ○ NPO 法人「ゲノム徳島」との共催で年2度は開催する。  ○ 四国経済産業局との連携を強化し、知的シーズの効率的な実用化を図る。  ○ 応用につながる基礎研究を推進し、研究成果の特許化をはかるために、民間との共同研究の件数を10件/年度以上をめざす。  ○ 他の公的研究機関との共同研究の件数を3件/年度以上をめざす。  ○ JSPS 拠点形成事業「Molecular Mechanism of the Thymus Organogenesis」を通して、海外研究者との交流を強める。</p>	<p>○ 一般向け講演会の実施。  ○ 学内外との共同研究。</p>	<p>○ 一般向け講演会の実施：2件。  ○ 学内外との共同研究：10件。</p>	<p><b>5</b></p>	<p>○ 一般向け講演会の実施：2件。  ・NPO との共催での11月13日小学生を対象とした講演会を開催(参加者約230人)。  ・夏、高校生向け分子生物学講習会兼講演会を開催した。  ○ 学内外との共同研究：10件。  ○学内外と合計41件の共同研究を進めている(内 民間企業との共同研究7件を含む)。</p>